



輝く瞳

<https://www.teinechuo-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和7年12月25日(木)

人とのつながりで育む「安全」と「安心」

校長 越野 宗丈

手稲山の山頂から降りてきた雪が、いつしか校庭を真っ白に染め上げました。吐く息の白さにも冬の訪れを実感する毎日ですが、子どもたちは寒さに負けず、雪に触れて歓声を上げながら元気に登校しています。さすが元気な手稲っ子です。

さて、毎年この時期になると、その年を象徴する「今年の漢字」が発表されます。私は、毎年この時期になると自分なりに予想をしてみます。そして、令和七年を象徴する一文字として選ばれたのは『熊』でした。(私の予想は外れてしまいましたが、本校職員の一人が見事に的中させていました)本校が位置する手稲区は、豊かな自然と都市機能が調和した素晴らしい地域ですが、今年は例年以上に「自然との共生」の難しさを突きつけられた一年でもありました。登下校ルートの変更や地域・保護者の方々の見守り登下校実施など、保護者・地域の皆様には多大なるご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。この『熊』という漢字を改めて見つめてみますと、そこには二つの側面があるように感じられます。一つは、自然の猛威や予測できない事態への「警戒」です。そしてもう一つは、そうした困難に直面したからこそ再確認できた「人とのつながり」です。見守り活動の中で、地域の方々が「おはよう」「気をつけてね」と子どもたちに掛けてくださる声。保護者の皆様同士で情報を共有し、助け合う姿。こうした一つ一つの行動が学校、そして子どもたちの安心感へと繋がりました。あらためて感謝申し上げます。心の距離はこれまで以上に密接になった機会だったと言えるのではないのでしょうか。

明日からはいよいよ冬休みが始まります。冬の北海道、特に雪深い手稲区での生活には、特有の危険が潜んでいます。交通事故はもちろん、気温の変化による屋根からの落雪や、雪山での遊びによる生き埋め事故、凍結した路面での転倒など、命に関わる危険がすぐ身近にあります。ご家庭でもぜひ「道路脇の雪山は遊び場ではない」「道路で雪玉を投げない」等といった具体的な冬のルールについて話し合う機会をつくっていただきたいと思います。

厳しい冬の寒さは、家の中で家族が寄り添う時間を増やしてくれます。

また、年末年始は久しぶりに親戚や懐かしい友人と会う機会も増えることでしょう。デジタルな繋がりが主流の時代ですが、顔と顔を合わせ、互いの存在を感じながら交わす言葉の温かさ、人とのつながりの大切さを、ぜひご家庭という一番小さな社会の中でも深めていただければ幸いです。来年の1月15日、ひと回り成長した子どもたちの元気な笑顔に再会できることを、教職員一同、心より楽しみにしております。どうぞ事故のない、穏やかな新年をお迎えください。



